

接合システムと設計・施工の注意点

通常、中層大規模木造ラーメンの柱脚では、断面の大きい RC 基礎梁と大断面集成材を高い剛性で接合する必要があり、基礎梁から突出させたアンカーボルトに柱脚金物を介して集成材を接合する。

この接合部を設計する際には、曲げモーメントに対する設計、水平力（せん断力）に対する設計が必要となる。この際、曲げモーメントとせん断力は別の機構で負担させるように設計する方が、構造計算上有利な場合が多い。

保有耐力設計に対応するには、木材での降伏、破壊が生じるとばらつきが大きく、変形性能の確保も難しいため、金属部分で降伏し、十分な変形性能を確保したい。

施工においては、水平、垂直の位置調整、柱の垂直調整の施工性を確保しながら、最終的にはできるだけ遊びが生じないように固定するための工夫が必要である。

解析モデルと断面算定

本設計データのように実大実験を実施すれば、①のような簡易なモデル化が可能となるが、構成要素のデータからモデル化する場合は、解析ソフトの仕様に応じて②～④のように細かくモデル化する必要が出てくる。どのようなモデル化が適合性が高いかは今後の検討課題である。

